

活動報告

(2023年5月～10月)

- 4月30日 議員任期始まる
- 5月 1日 糸魚川メーデー(まがたまホールにて)
- 5月 1日 上越メーデー(雁木通りプラザにて)
- 5月 9日 県議会初登庁
- 5月22日 県議会臨時会
- 6月24日 柏崎刈羽9条の会で
「大軍拡・大增税と改憲の危険」と題して講演

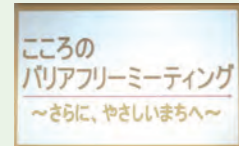


6月27日～7月14日
県議会6月定例会
総務文教委員会に所属し、質疑に参加

8月9・10日 総務文教委員会・県内視察
8月30日 上越つくしの里医療福祉協会主催の



「こころのバリアフリーミーティング」に発言者として参加
成年後見制度について発言



9月4・5日 特別委員会・県内視察
9月26日～10月17日 県議会9月定例会

～略歴～

1964年旧高士村(現上越市)に生まれる、現在59歳
高士小学校、高士中学校、高田高校、東京大学法学部卒業
宇都宮健児弁護士に師事
1998年に弁護士登録し、新潟市内で弁護士活動開始
2003年に上越市本町3丁目に弁護士事務所を開設
2008年に友人らと共に高田日活(現高田世界館)の維持保存に奔走
2016年市民連合・上越の共同代表として、市民と野党の共同の先頭に立つ
*趣味は山歩き、TVドラマ鑑賞
*現在、子ども3人(2女1男)は独立し、妻と父母と共に暮らす

お知らせコーナー

「馬場の事務所」開設しました!

本町3丁目のダイアパレス高田式番館2階に「馬場ひでゆき事務所」を開設しました。事務所の営業時間は、月～金曜までの午前10時～午後5時となります。



事務所のスペースは広いので、少人数の勉強会などに利用できます。事前にご連絡ください。

「馬場の話しが聞きたい」

4・5人集まっていたいただければ、どこにでも駆けつけます。ぜひご連絡ください。



ホームページリニューアル

このたびホームページを公開しました。今後とも、わかりやすく最新の情報を発信していきます。よろしくお願いいたします。



←ホームページ

Instagram, Facebook
X(旧Twitter)でも
情報発信中



発行: 馬場ひでゆき事務所

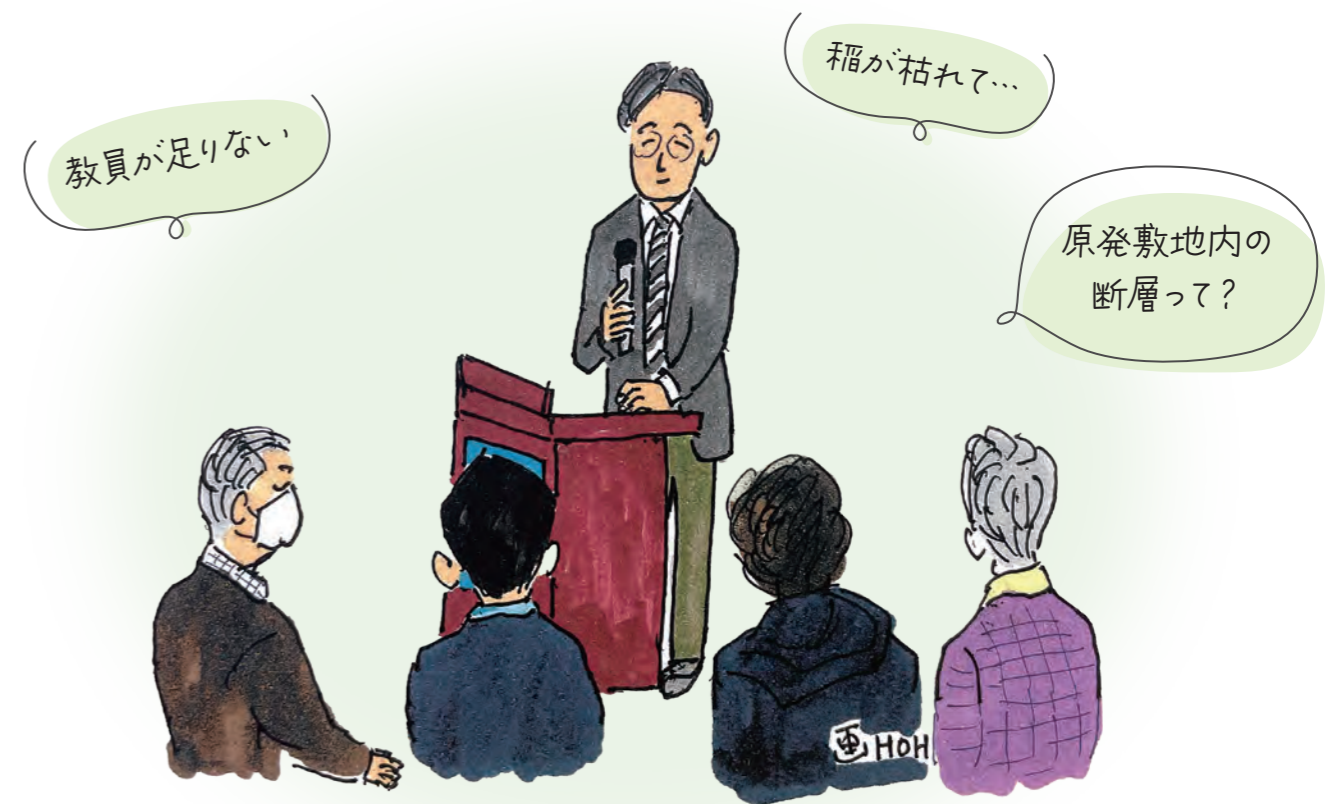
新潟県上越市本町3丁目3-3
ダイアパレス高田式番館2階
電話 025-546-7110
FAX 025-546-7666

〔新潟県議会議員・無所属〕

馬場ひでゆき

活動報告

vol.1
2023.秋号



ごあいさつ

紅葉の美しい季節となりました。皆様、いかがお過ごしですか。私は、たくさんの皆様に支えていただき、本年4月30日より、新潟県議会議員としての活動を始めることができました。遅くなりましたが、これまでの活動を報告いたします。

今年の夏は、かつて経験したことのない異常な猛暑でした。中山間地の水田で稲が立ち枯れる被害が拡大し、コメの収量の減少や品質低下で水田農家が甚大な損害を被りました。私は、現場に出向いて話を聞き、それを県や市町村にお伝えしてきました。皆さんの要求を政治に繋げることの大切さを実感しました。今後も、皆様のご意見ご要望を伺いながら、活動を続けてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学校の先生が忙しすぎる！

(新潟県議会6月定例会の総務文教委員会での質疑から)

Q 先生の絶対数が足りないのでは？

「県内の小中学校の場合、昨年3月の段階で、代替教員を確保できずに未配置になった数が小中学校で合計35名いました。今年度当初(4月)の未配置数をゼロとするよう努めましたが、4月1日時点で10人の未配置がありました。高校では4月の時点で13名、7月1日時点で4名の未配置が生じています。」(教育委員会の答弁)

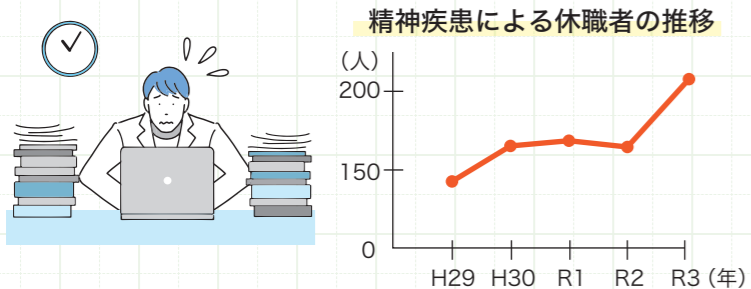


Q 先生の残業時間は？

文部科学省が本年4月に教員の勤務実態調査を公表、中学校の教職員の1か月当たりの残業時間が80時間を超えている教員が36.6%もいました。本県の独自の調査でも「中学校教員で1か月の残業時間が80時間を超えている教員は11.5%」でした(同上)。

Q 心の病で休職している先生はどれくらいいますか？

新潟県の教職員の精神疾患による休職者は、平成29年148人、同30年176人、令和元年177人、令和2年174人、令和3年206人と高止まりの状況です。教育委員会も、長期病休者が減少しない背景のひとつが長時間労働であると認めました。



先生方の忙しさが目に浮かびます。先生の多忙化は、教育の質の低下に直結します。労働条件の改善、教員の増加を求めています。

馬場ひでゆき 6つの約束

- 1 みんなの声を政治に活かす
- 2 一人親・子育て世帯の支援
- 3 病院・医療・介護の充実
- 4 街をつくるムラを守る
- 5 原発再稼働に反対を貫きます
- 6 大軍拡・大増税ストップ



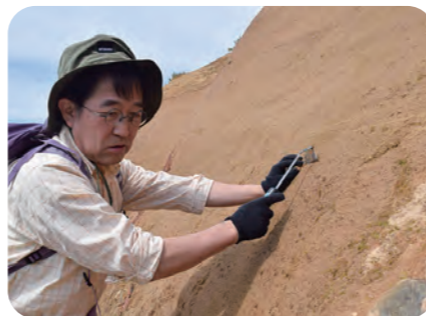
みんなでスクラム!

どうする？ 柏崎刈羽原発の再稼働

●9月13日、花角知事は、県が作成した「3つの検証」の総括報告書の提出を受けて、「県として柏崎刈羽原発に関する(再稼働の)議論を進めていく」と表明しました。

●しかし、再稼働反対の草の根の動きも活発です。前総括委員長の池内了さんが、市民による独自の総括報告書を作成しようと県内各地で講演会を開催してきました。9月24日、柏崎市で「なくそテ原発2023柏崎大集会」が開催され、1,000名余が参集しました。皆さんの熱気に励まされました。

●学習を深めながら、草の根の運動の輪を広げていくことが大切です。私も、原発再稼働ストップのために頑張ります。



柏崎で行われた専門グループによる地層調査に参加

干ばつ被害で緊急要請

大島区、吉川区、牧区で干ばつ被害調査

この夏、上越地域では日照りが続き、農産物に深刻な被害が発生しました。8月11日、日本共産党市議団とともに吉川区、大島区の山間地にある水田を視察しました。ため池はほとんど空っぽの状態、田んぼの地割れの深さは15cmに達し、稲の葉は巻き上がり、黄色く枯れていました。大島区の農家の男性が、ポンプを動かしながら「燃料代の経費がかさむ、今後が心配、汲める水もなくなる」と不安を口にされました。21日は牧区に行きました。ここでも農家の方が「(稲が枯れ始めていて)収穫できても三等米、価格は一等米の3分の1で大赤字だ、ひび割れた田んぼの復旧工事も多額の金がかかる、公的支援が必要だ」と訴えました。



空っぽ状態のため池



地割れした田んぼ

災害支援の緊急要請

8月14日、上越市の農林水産部を訪問して緊急要請をしました。そして、9月15日には、農家の皆さんとともに新潟県にも要請、「品質低下で大幅な収入減少が避けられない、資材や燃料費が高騰している状況では今後の営農継続が困難、離農者が出ることをないように緊急の支援をしてほしい」と訴えました。



8月21日 牧区坪山に視察

上越市・新潟県が緊急支援を決定

上越市は、現在までに緊急支援策を決定しました。主な内容は次のとおりです。新潟県も同様の支援を決めています。

- 消雪用井戸の開放
- 水を汲み上げるポンプや給水ホースの借上げ・購入費の補助
- 田面のひび割れた農地の復旧工事の費用補助
- 経営が悪化した農家の金融機関の借入について保証料、利子などの補助

最近の報道によれば、県産米の1等米比率が大幅に低下、収入減少が避けられません。行政の支援策がまだ万全とはいえませんが、引き続き支援の充実を求めています。

